

(別紙2)グループワーク後の意見発表(※①＝1班、②＝2班、③＝3班)

	問題点	問題点を解消するアイデア
案1 【現行改良型】	①選考基準が難しそう。 ②今の商品の基準がお土産品以上ということ？ ②「作れない」でおとしたら、本当に良いものが無くなってしまうのでは？ ②現行の「しゅうなんブランド」制度とあまり変わらない感じがする。 ②収入拡大につながるかどうか？ ②市民参画のほうがいい ③有名でないと難しいのでは ③認定基準の厳格化 ③日常食品を含めてもいいのでは ③良質で安価な品物もあるのでは ③認定を外れは商品の取扱いはどうするのか	②市民参加型を取り入れる ③ある程度流通が可能なモノのみに ③商品選定 徹底宣伝 ③他ときちんと差別化できるもの ③販売しているものの明記 ③-0認定事業者への再認定の意向確認 ③きちんと商品として実態のあるもの ③ひとつの団体で取扱いをする。(店舗不要)情報発信、販売 ③今のブランド認定品を大切に考えてあげる ③販売している場所の明記 ③大都市の展示会ヘドンドン出店
案2 【市民投票型】	①市民にとって商品の比較が難しいのではないか ②しぼった商品でいくと、現在の認定品に対するPRの力の入れ方がかわる？ ②市民より、県外や実際にターゲットになる人に参加してもらったほうが良いのでは ②各1品は少ない ②協議会で二次選考をする時に基準が難しいのでは ②生産者のモチベーション ③市民選考の方法が難しそう ③試食会場の選定が難しそう ③試食会は時間と手間がかかりすぎる	②品目増 各3品 ②自分事に巻き込む(市が市民を) ②外にもって行って話したくなるストーリー作り ②市民・市長・インフルエンサーなど、巻き込めるだけの人々を考えぬく ②バズるという保証はないけど、負担が周南市なら生産者はチャレンジできるのでは ②1年目は3品でも品を変えて色々な商品を推していくと、このブランドに入りたいという生産者が増えてくるのでは ②協議会の選考を2次選考にする ②投票者の枠組みを設定する ③大々的な選定のためのイベント実施 ③毎年のランキング制 ③試食会＝イベント ※開催日を固定 ③お土産にもって帰ろうと思うような品、数、価格
案3 【共同開発型】	①事業者への事前周知(募集の仕方)が難しそう ①販路開拓、商品開発のアドバイザーが必要 ②生産者のモチベーション ②共同商品を作るということになる？ ②「開発中の商品」を募集するのが難しい？ ②「しゅうなんブランド認定品」を改良するのも難しい？ ②収入拡大に繋がるかどうか ②共同開発にかかる経費は事業者負担？ ②協議会が何を提供できる？ ②市民参画のほうがいい ③事業者と協議会の目的・狙いのギャップが生じる恐れがある ③協議会として商品化に関われるのか？(ノウハウ的なもの) ③ブラッシュアップする際の経費は？ ③市民へ情報が届きにくい	①協議会ではなくプランナーに審査を任せる ②市民参加型を取り入れる ③ブラッシュアップへの補助金 ③ブラッシュアップのプロセスの見える化(SNSのコメント等も拾う)

	見直し案 タイトル	対象商品 イメージ	募集対象	選考方法	主なターゲット	主な販路
グループ案 1班	案2+案3の複合		開発・改良中 又は 予定(様々な段階)	1次選定 協議会 2次選定 プランナーに支援依頼	全国	
グループ案 2班	案2 ターゲットによる投票	未定	全て	1次選定 協議会 2次選定 市民orターゲットによる投票	県外者も	カタログギフト作成
グループ案 3班	案1+案2	日常食品 お土産品	全て	現行のブラッシュアップ 市民投票	市内在住 旅行者	スーパー 交通拠点付近店舗

その他 全体を通して	①駅で売れるものは多いといいと思う。	②周南ブランドを入れるブランド袋を用意するとよいと思う。	③多くの人に知ってもらいにくい。外出が自由になれる人、出張する人、インターネットのできる人はいいが、それ以外の人は？	③核となるものがあるのでは？
---------------	--------------------	------------------------------	--	----------------